

令和7年度 稲部幼稚園・いなべ保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	・こどもの発達過程を捉え目指す姿に向けた支援や援助、物的、人的環境の構成を工夫してきました。その結果やってみようとする意欲や安心して自分の思いを出せる子が増え、主体的な姿へ繋げることができました。 ・こどもが伸び悩んでいるような姿が見られたり保護者の困り感があるようなときには関係機関とも相談しながら成長の後押しの方法を共に探り支援に繋げました。	・前月までの経過を振り返り、保育者の関わりによるこどもの育ちや新たな課題を明確にします。月案と連動させたPDCAサイクルを意識し、こどもの興味関心に基づいた計画(P)を立て、日々の実践(D)を行うことで、常に環境構成や言葉がけ、関わりなどの改善に努めます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	・週案や月案を担任間でよく話し合い、同じ気持ちで保育を進めていけるよう取り組みました。 ・月案討議や園内研修で他年齢クラスの状況や大事にしていることなどを共有し、園のこどもたちを職員全員で見守りました。姿や課題を明らかにし粗大・微細運動の発達を促す環境作りを行ったことで、こどもたちの手先や運動能力の成長に繋がりました。	・気付いたことや迷いや課題等共有しきれていないこともあったので、連携や話し合いを密にし、その日の振り返りを大事にしながら共通理解のもと、保育を行うよう努めます。 ・わらべうた、文学、環境認識などを園内研修に取り込み、日々の保育での実践に繋げていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	4	・公開保育に向け、園内研修を積み、環境構成を工夫したり、こどもへの関わり方を見直すなどしたことで、主体的に遊ぶようになるこどもの姿が増えてきました ・iPadを活用した園内研修を行いました。食事や遊びの様子を映像で見たり考えたりしこども掴みが深まり、次の日からの保育に繋げることが出来ました。	・研修で得た知見を目の前のこどもたちに合わせて柔軟に実践し、その成果や手応えを園内で共有し、園全体の保育の質の向上となるよう図ります。 ・園内研修や年齢別部会だけでなく、外部研修にも積極的に参加し、自己研鑽に励むことで保育の引き出しを増やします。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	・今年度はスマホを使い119番映像通報システムで火災の訓練を行いました。的確な対処を受けながら訓練を行うことができました。 ・アレルギーや離乳食の誤配・誤食のないように担任だけでなく給食に関わる職員で確認を重ね、安心して給食に向かえるよう取り組みました。	・防災頭巾を袋にまとめていたことで、避難時に迅速な取り出しが困難であるという課題が明確になりました。今後はこどもたちの命を守る行動を最優先に考え、保管場所や管理方法を再考し、より俊敏に避難できる体制へと改善していきます。 ・来年度も離乳食やアレルギー対応が必要な子がいる為、担任、調理員、補助保育士、代替え職員と連携し誤配誤食のないよう努めます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	・町教研の日やCLM研修などで小中学校の先生方と話す機会があることで町内のこどもの姿を共有でき、自らの保育の振り返りに繋がりました。 ・リーディングスキル安心いきいきの合言葉も浸透し保育をすることが出来ました。	・3歳未満児は直接的な小中との連携は難しいですが、第8次3つの提言の3つの合言葉を意識し、各年齢や一人一人の発達に合わせ目指すこども像に繋げた保育に取り組みます。 ・園生活で大切にしていることや実践していることが小学校中学校へ繋がっていることを再認識し、日々の保育を行います。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	・その日の出来事や成長を感じられるエピソードなど具体的な姿を送迎時に伝える機会を作り、信頼関係の構築に努めました。連絡帳などから保護者の困り感がうかがえる時は、話を聞き、両者が同じ思いでこどもと接することが出来るようにしました。	・保育時間に違いがあっても話す機会に差がないよう、どの保護者とも話をするよう努めます。 ・保護者の悩みや相談に対して、気持ちに寄り添うことや的確に返答できるよう保育者としての知識や技術を高めていきます。